2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月６日

上 場 会 社 名	塩水港精糖株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	2112	URL	http://www.ensuiko.co.jp
代　　表　　者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）	木村　成克
問合せ先責任者	（役職名）常務取締役	（氏名）	小田　俊一　(TEL) 03-3249-2381
半期報告書提出予定日	2026年11月６日	配当支払開始予定日	2026年12月２日

決算補足説明資料作成の有無　：無
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	16,598	△0.4	1,623	12.0	1,716	9.4	1,176	△22.4
2026年３月期中間期	16,667	3.1	1,448	1.9	1,570	4.3	1,516	43.7

(注) 包括利益　2027年３月期中間期　3,222百万円(　63.7%)　2026年３月期中間期　1,968百万円(　118.5%)

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	42.74	―
2026年３月期中間期	55.21	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	34,850	23,309	66.9
2026年３月期	31,813	20,603	64.8

(参考) 自己資本　2027年３月期中間期　23,309百万円　2026年３月期　20,603百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	20.00	20.00
2027年３月期	―	8.00			
2027年３月期(予想)			―	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,100	△2.7	2,400	△21.3	2,600	△22.1	1,800	△34.9	65.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	35,000,000株	2026年３月期	35,000,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	7,409,346株	2026年３月期	7,480,346株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	27,536,725株	2026年３月期中間期	27,467,336株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景に緩やかな回復基調が続いているものの、物価上昇の継続や人件費等のコスト上昇に加え、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社及びグループは、国民の生活を支える基礎的食品である砂糖や、オリゴ糖をはじめ健康付加価値のある機能性素材等を、消費者の皆様に安定してお届けすることを第一義とし、品質管理及び危機管理体制の強化、環境変化にも適応した事業体制の構築と経営基盤のさらなる強化に努めてまいります。また、中期経営計画「NEXT 2030」に基づき、砂糖事業の安定的な収益確保と、バイオ事業（オリゴ・ビーツ）を中心とした収益基盤の多角化に向けた諸施策を着実に実行し、持続的な企業価値の向上に邁進してまいります。

当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場において15.44セントで始まりました。序盤は前年からの生産国の増産実績が積みあがり、期近の供給過剰感から先物相場は下落基調で推移し、４月17日に2020年９月以来となる安値13.22セントを付けました。しかし、ブラジルでのエタノール増産予測やエルニーニョ現象発生によるインド・タイの減産見通しから８月に入り期近原糖相場は25％以上の急騰となり、９月10日には１年５カ月ぶりの高値18.88セントをつけ、高値基調を維持したまま、17.63セントで当中間連結会計期間を終了いたしました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋１ｋｇ当たり）は、期初241円～243円で始まり、同水準のまま当中間連結会計期間を終了しました。

精糖及びその他糖類などの販売は、昨年11月の価格改定に伴い販売単価が低下した影響等により売上高は前中間連結会計期間を下回りました。

一方で、原料糖調達や製造等のコスト低減に努めた結果、利益面では前中間連結会計期間を上回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は15,765百万円（前中間連結会計期間比0.4％減）、セグメント利益は2,144百万円（前中間連結会計期間比8.7％増）となりました。

②バイオ事業

オリゴ糖製品は、業務用は前中間連結会計期間を下回ったものの、家庭用商品は『オリゴのおかげ』のヘビーユーザー向け大容量品の売上が伸長したことをはじめ好調に推移しました。この結果、オリゴ糖製品全体の売上高は前中間連結会計期間を上回りました。

サイクロデキストリン製品は、一部ユーザー向け大口受注の反動減により、売上高は前中間連結会計期間を下回りました。

ビーツ製品は、「ビーツのおかげ」がメディアに取り上げられた効果等もあり、売上高は前中間連結会計期間を上回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は847百万円（前中間連結会計期間比0.0％増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は149百万円（前中間連結会計期間比6.9％減）となりました。

③その他

その他の事業につきましては、ニューＥＳＲビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は71百万円（前中間連結会計期間比4.0％増）、セグメント利益は39百万円（前中間連結会計期間比2.5％増）となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は16,598百万円（前中間連結会計期間比0.4％減）、営業利益は1,623百万円（前中間連結会計期間比12.0％増）、経常利益は1,716百万円（前中間連結会計期間比9.4％増）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,176百万円（前中間連結会計期間比22.4％減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産、負債及び純資産の状況）

①資産

流動資産合計は前連結会計年度末に比べて57百万円減少し、8,708百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が185百万円減少した一方で、商品及び製品が239百万円増加したことによるものであります。

固定資産合計は前連結会計年度末に比べて3,093百万円増加し、26,141百万円となりました。これは主に、投資有価証券が2,988百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3,036百万円増加し、34,850百万円となりました。

②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて331百万円増加し、11,540百万円となりました。これは主に、有利子負債が474百万円、未払法人税が169百万円減少した一方で、繰延税金負債が967百万円増加したことによるものであります。

③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2,705百万円増加し、23,309百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が2,077百万円、利益剰余金が626百万円増加したことによるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて25百万円減少し、2,866百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1,354百万円（前中間連結会計期間は1,020百万円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前中間純利益1,716百万円、減価償却費304百万円、利息及び配当金の受取148百万円等による資金の増加があった一方で、棚卸資産の増減額136百万円、仕入債務の増減額55百万円、法人税等の支払額698百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、353百万円（前中間連結会計期間は869百万円の資金収入）となりました。

これは主に、貸付金の回収による収入427百万円等による資金の増加があった一方で、有形固定資産の取得による支出298百万円、貸付けによる支出480百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、1,022百万円（前中間連結会計期間は1,253百万円の資金支出）となりました。

これは、配当金の支払548百万円、借入金の純減少額474百万円による資金の減少があったことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年５月８日付「2026年３月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました業績予想から修正はございません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,892	2,866
受取手形及び売掛金	2,102	1,916
商品及び製品	1,145	1,384
仕掛品	332	239
原材料及び貯蔵品	1,186	1,174
その他	1,107	1,126
流動資産合計	8,766	8,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,395	10,557
減価償却累計額	△8,116	△8,199
建物及び構築物（純額）	2,278	2,358
機械装置及び運搬具	12,664	12,815
減価償却累計額	△10,782	△10,949
機械装置及び運搬具（純額）	1,882	1,865
工具、器具及び備品	520	531
減価償却累計額	△414	△434
工具、器具及び備品（純額）	105	96
土地	5,185	5,185
建設仮勘定	123	80
有形固定資産合計	9,575	9,585
無形固定資産		
ソフトウエア	9	7
その他	6	6
無形固定資産合計	15	13
投資その他の資産		
投資有価証券	11,191	14,179
長期貸付金	1,742	1,785
退職給付に係る資産	174	236
繰延税金資産	275	276
その他	71	64
投資その他の資産合計	13,456	16,542
固定資産合計	23,047	26,141
資産合計	31,813	34,850

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	960	905
短期借入金	2,600	3,000
1年内返済予定の長期借入金	1,584	1,420
未払法人税等	719	550
未払消費税等	175	173
賞与引当金	65	75
その他	960	953
流動負債合計	7,065	7,078
固定負債		
長期借入金	2,546	1,836
退職給付に係る負債	―	60
繰延税金負債	1,383	2,350
その他	215	215
固定負債合計	4,144	4,462
負債合計	11,209	11,540
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	245
利益剰余金	18,008	18,635
自己株式	△2,862	△2,833
株主資本合計	17,137	17,797
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,181	5,259
繰延ヘッジ損益	△11	13
退職給付に係る調整累計額	295	238
その他の包括利益累計額合計	3,466	5,511
純資産合計	20,603	23,309
負債純資産合計	31,813	34,850

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	16,667	16,598
売上原価	13,513	13,243
売上総利益	3,154	3,354
販売費及び一般管理費	1,705	1,731
営業利益	1,448	1,623
営業外収益		
受取利息	20	29
受取配当金	114	118
持分法による投資利益	27	0
その他	12	5
営業外収益合計	174	154
営業外費用		
支払利息	50	53
支払手数料	1	1
その他	1	5
営業外費用合計	53	60
経常利益	1,570	1,716
特別利益		
投資有価証券売却益	605	－
特別利益合計	605	－
税金等調整前中間純利益	2,175	1,716
法人税、住民税及び事業税	657	536
法人税等調整額	1	3
法人税等合計	658	539
中間純利益	1,516	1,176
親会社株主に帰属する中間純利益	1,516	1,176

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	1,516	1,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	466	2,077
繰延ヘッジ損益	△3	24
退職給付に係る調整額	△0	△9
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	△47
その他の包括利益合計	451	2,045
中間包括利益	1,968	3,222
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,968	3,222

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,175	1,716
減価償却費	289	304
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△9	55
賞与引当金の増減額（△は減少）	3	9
受取利息及び受取配当金	△135	△147
支払利息	50	53
為替差損益（△は益）	1	3
持分法による投資損益（△は益）	△27	△0
投資有価証券売却損益（△は益）	△605	－
売上債権の増減額（△は増加）	58	185
棚卸資産の増減額（△は増加）	△373	△136
仕入債務の増減額（△は減少）	205	△55
その他	48	△30
小計	1,681	1,958
利息及び配当金の受取額	135	148
利息の支払額	△50	△54
法人税等の支払額	△748	△698
法人税等の還付額	0	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,020	1,354
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△376	△298
無形固定資産の取得による支出	△0	－
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	1,310	－
貸付けによる支出	△480	△480
貸付金の回収による収入	415	427
その他	2	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	869	△353
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△300	400
長期借入れによる収入	300	－
長期借入金の返済による支出	△844	△874
配当金の支払額	△409	△548
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,253	△1,022
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△3
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	634	△25
現金及び現金同等物の期首残高	3,313	2,892
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,947	2,866

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注１）	中間連結損益計算書計上額（注２）
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,799	807	－	16,607	－	16,607
その他の収益	－	－	60	60	－	60
外部顧客への売上高	15,799	807	60	16,667	－	16,667
セグメント間の内部売上高又は振替高	35	39	8	82	△82	－
計	15,834	847	68	16,750	△82	16,667
セグメント利益	1,973	160	38	2,172	△723	1,448

（注）１　セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

２　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３　その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく賃貸収入等であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注１）	中間連結損益計算書計上額（注２）
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,732	802	－	16,535	－	16,535
その他の収益	－	－	63	63	－	63
外部顧客への売上高	15,732	802	63	16,598	－	16,598
セグメント間の内部売上高又は振替高	32	45	8	86	△86	－
計	15,765	847	71	16,684	△86	16,598
セグメント利益	2,144	149	39	2,333	△710	1,623

（注）１　セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

２　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３　その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく賃貸収入等であります。